

# 2023仙台市議選 立候補予定者 こども子育て政策に関するアンケート

回答者名【 渡辺たかのぶ 】 立候補予定選挙区【 宮城野区 】

問1. 仙台市では、保育所の空き定員等を活用した未就園児の定期的な預かりモデル事業を行っていますが、どのように評価していますか。

未就園児とその保護者を支援するための取り組みの一つとして評価しています。またモデル事業の段階であり、保育所での受け入れ可能な未就園児の人数が少ないことや、支援が必要な方々への情報伝達等、様々な課題があると思いますが、本補助事業を通じ、事業の本格実施に向けた課題の検証と制度のブラッシュアップを行っていくことが大切であると考えます。

問2. 仙台市発達相談支援センター（アーチル）が、受付から相談対応まで最大4ヶ月かかることに対して、どのようにお考えですか。

最大4ヶ月という期間は待ち時間としては適切とは言えず、受付から相談対応までのプロセスに問題がないか、また、相談件数に対してセンターの人員が十分なのかどうか等、現場の声を聞きながら検討する必要があると考えます。

問3. 厚生労働省は、インクルージョンを推進していく上では、児童発達支援と幼稚園・保育所等との併行通園を推奨していくことが重要としています、どのようにお考えですか。

併行通園は、児童とその保護者、双方への支援のために有用であると考えています。他者との関わりを持ち、社会生活を学ぶ上で、幼稚園・保育園は重要な場所ですが、一方で発達障害等の障害を抱えるお子さんは、他者と足並みを揃えることや、「普通」に振舞うことを不得意とすることが多く、それが保護者の悩みとなっていることが多々あります。そのため、お子さんの個性に応じた支援を受けられる体制を整備することは非常に大切だと考えます。

問4. 仙台市には、障害のある子どもを保育園に預けたくても預けられず、就労を諦めている人が一定数おります。この現状についてどう思われますか。

問題であると思います。障害のあるお子さんを預けられず、仕事に就けないことによって、世帯収入が減少し、生活への不安が生じるばかりか、つきっきりでお子さんのケアをせざるを得ない保護者の精神的・肉体的負担にも繋がります。障害児の受け入れ体制の拡充は、市としての課題であると考えています。

問5.仙台市の医療的ケア児の保育所受入れ人数は100万人当たり4.6人で、政令指定都市20都市中17位です。この現状についてどう思われますか。

今後の課題であり、改善が必要であると思います。医療的ケア児の受け入れにおいては、何より専門職員の養成が課題であり、ナースセンターと連携した看護職員の確保や、保育士への研修の実施等、市として施設に対し、更なる支援を行っていく必要があると考えます。

問6.その他、コメントあればお願いいたします。